

社会福祉協議会によるデイサービス施設の利用圏と送迎体制

一周防大島町における社会福祉協議会委託管理方式によるデイサービス施設の整備プロセス その2

デイサービス施設 送迎体制	周防大島町社会福祉協議会	利用圏	正会員	○大橋 彩織*
			正会員	三島 幸子**
			正会員	石橋 凧砂*
			正会員	孔 相権***
			正会員	中園 真人****
			正会員	山本 幸子*****

1. はじめに

本報では社会福祉協議会委託管理方式で運営される6施設を対象として、施設の利用者属性及び利用圏、送迎体制の分析を行い、施設の利用構造を明らかにすることを目的としている。

調査内容は施設利用者データ^{注1)}の収集、送迎調査である。送迎調査は、施設Aは平成26年10月29日、施設Bは10月27日、施設Cは11月5日、施設Dは11月4日、施設Eは10月28日、施設Fは6日に行った。

2. 施設の概要

社会福祉協議会のデイサービス施設の概要を表1に示す。施設Bは施設Aの出張所であるため、営業日は月・土曜日だけの営業となっている。定員は施設A、B共に10名で登録者は施設Aで17名、Bで8名であり、1日6名程度来所している。職員は施設AとBの両施設を担当するため12名と多く、1日4名で対応する。施設Aでは一般浴室にリフトがついている点の特徴である。施設Cは定員10名であり、営業日は月、水、木、金曜日である。登録者数は17名で1日7名程度来所しており、職員4名で対応する。施設Dは生活支援ハウス、ヘルパーステーションと併設している。定員が20名であり、営業日は月～土曜日が営業日となっている。登録者数は20名で1日7名程度来所しており、職員4名で対応する。施設Eは生活支援ハウスと併設しており、利用者の中には生活支援ハウスの入居者もいる。定員は24名で、営業日は月～金曜日である。登録者は36名で、1日13名程度来所しており、職員4、5名で対応する。現在の機能訓練室は元々、地域のふれ合いの場としてつくられたものであったが、デイサービスの利用者が増加し、デイサービス専用室のみではスペースが足りなくなったため、現在ではデイサービスの機能訓練室として使用している。施設Fは定員が24名で、営業日は月～金曜日である。登録者は36名で、1日13名程度来所しており、職員4名で対応する。

サービスの提供時間は全施設9:30～16:15で、提供サービスの内容は送迎、健康チェック、入浴、食事、個別訓練、集団レクリエーションである。

3. 利用者属性

表1 デイサービス施設の概要

施設名	施設A	施設B	施設C
構造	RC造平屋建	RC造平屋建	RC造平屋建
開設時期	1995年	1995年	1998年
主な部屋	食堂(訓練室)、静養室、風呂、男女兼用トイレ、調理室	食堂(訓練室)、静養室、サンルーム、風呂、男女兼用トイレ(2ヶ所)、調理室	食堂(訓練室)、静養室、風呂、男女兼用トイレ、調理室、事務室
設備	一般浴(リフト付き)、便所大2、小1	一般浴、便所大3、小1	一般浴、便所大2、小1
営業日	火・水・金・日	月・土	月・水・木・金
定員	10人	10人	10人
登録者数	17人	8人	17人
職員数	12人	12人	6人

施設名	施設D	施設E	施設F
構造	RC造平屋建	RC造平屋建	RC造平屋建
開設時期	1999年	1997年	1998年
主な部屋	食堂(訓練室)、静養室、風呂、男・女・車イス用トイレ、調理室、事務室	食堂(訓練室)、静養室、風呂、男・女・車イス用トイレ、調理室、事務室	食堂(訓練室)、静養室、風呂、男女兼用トイレ、調理室、事務室
設備	一般浴、便所大5、小2	一般浴、便所大5、小2	一般浴、便所大2、小1
営業日	月～土	月～金	月～金
定員	20人	24人	10人
登録者数	20人	36人	23人
職員数	6人	9人	6人

注1: 施設BはH.26から施設Aの出張所となる。
注2: 施設Dはヘルパーステーション、生活支援ハウスと併設。
注3: 施設Eは生活支援ハウスと併設。

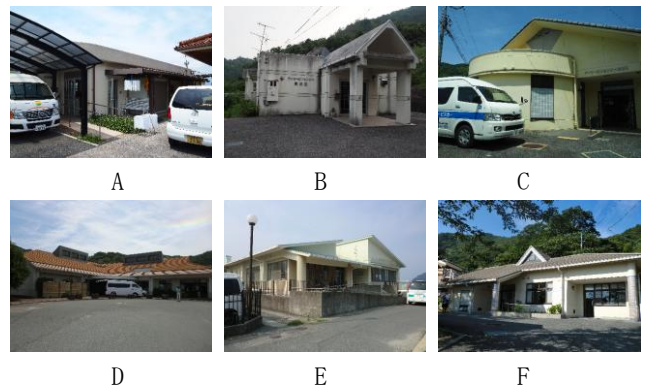


写真1 施設の外観写真

施設利用者の基本属性を図1に示す。全施設利用者の性別は女性が8割を占めており、特に施設Cで女性が9割程度を占め最も多い。全施設利用者の年齢の構

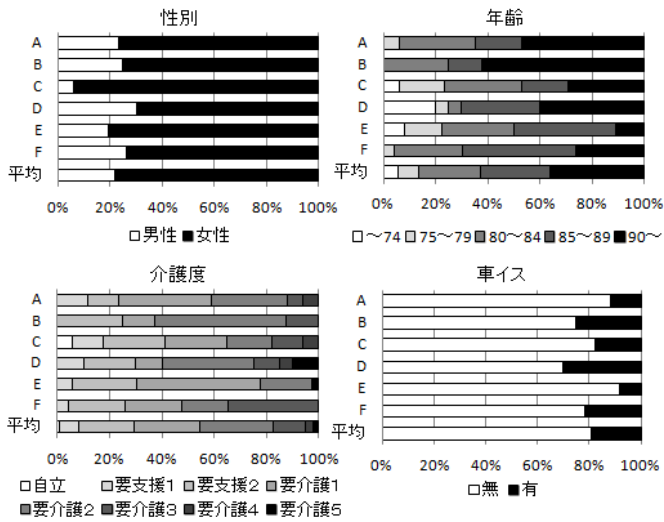


図1 施設利用者の基本属性

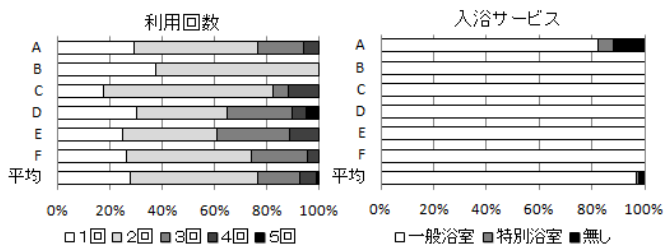
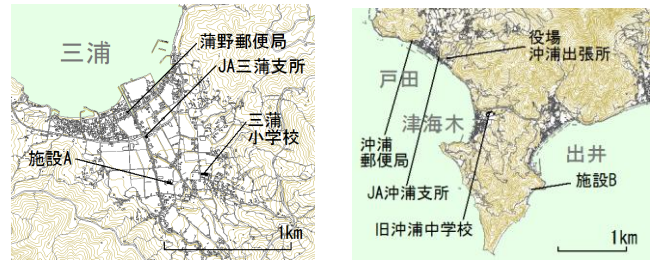


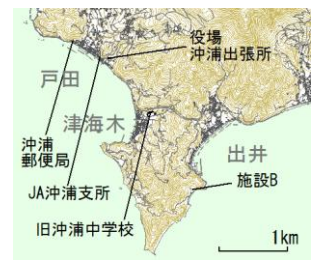
図2 施設の利用回数と入浴サービス

成比をみると、90歳以上の利用者が平均で3割以上を占め最も多く、次いで85歳以上が2割以上と高い。また、80歳以下の利用者が2割に満たないことから全体的に利用者の年齢が高い。特に施設Bの利用者は80歳以上の利用者が構成され、中でも90歳以上の利用者が6割を占めており、6施設の中で最も利用者の年齢が高い。要介護度については各施設でばらつきが確認できるが、施設Dで要介護3以上が2割と最も介護度が高く、施設Eが最も介護度が低く、要介護3以上の利用者は要介護5の利用者が1名のみである。要介護1・2は施設A,B,Eで6割以上を占め、その他の3施設では4割を占めている。全施設において要介護1・2が最も高い割合を占めている。また、施設ごとに利用者の介護度に差はあるが、要介護2以下の利用者が5割を占め、介護度が低いことが分かる。車イスの使用状況をみると、施設B,D,Fで車イス利用者が2割を超えており、施設Eでは車イス利用者数が最も少なく1割以下となっている。

次に施設の週当たりの利用回数と入浴サービスの有無を図2に示す。週2回の利用者が6施設とも3-6割と、最も高い割合を占める。全体でみると、週4回以上の利用者が1割程度、週3回以下の利用者が8割以上である。ただし、施設Bでは週2日のみ営業のため、週2回までの利用となっている。入浴サービスは一般浴室での入浴



A



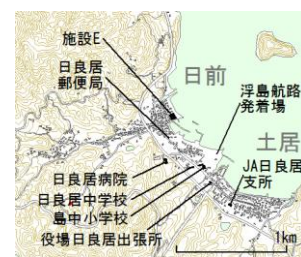
B



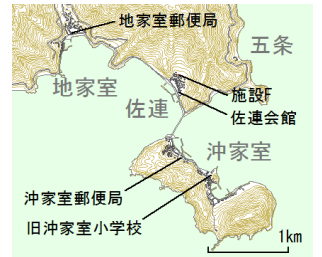
C



D



E



F

図3 施設周辺の空間特性

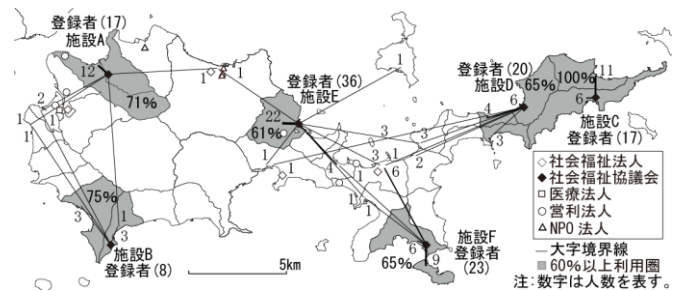


図4 施設の利用圏

を受けている利用者が、施設A以外の5施設全てで10割となっている。これは、施設Aにのみリフト付きの浴室が整備されているためである。リフトの利用者は1名のみである。

4. 利用圏と送迎体制

4.1 施設の利用圏

施設が立地する地域の空間特性を図3、施設の利用圏を図4に示す。施設Aの登録者は17名であり、施設が立地する三浦から12名、次いで小松開作(2名)・志佐(1名)・久賀(1名)・出井(1名)と施設から離れた所に住む利用者也来所している。施設Aは三浦の中心地近くに立

表2 利用者往復延人数・送迎時間と職員所要時間

施設名	送迎地域: 人数	車種・台数		送迎時間・職員数		日平均	
		迎え	送り	迎え所要 時間・職員 総数 分(人)	送り所要 時間・職員 総数 分(人)	利用者 往復延人数 ・送迎時間 人(分)	職員 所要時間 分
施設A	三蒲:6,志佐:1, 出井:1	L1,M2	L1,M1	100(4)	76(3)	16(176)	13.9
施設B	出井:3,戸田:3, 志佐:1,小松開 作:1	W1,M1	W1,M1	89(2)	92(2)	16(181)	11.3
施設C	油宇:3,伊保 田:6	L1	L1	41(2)	37(2)	18(78)	8.7
施設D	小泊:2,森:1,西 方:1	L1,M1	L1	55(3)	47(2)	8(102)	21.6
施設E	日前:8,浮島:1, 油良:2,西方:1, 安下庄:1	S2,M1	S2,M1	94(3)	92(3)	26(186)	7.2
施設F	地家室:2,沖家 室:2,西方:1	S1,M1	S1,M1	44(2)	47(2)	10(91)	9.1

注1:職員所要時間(分)=Σ[迎え所要時間×職員数+送り所要時間×職員数]
/利用者往復延人数]

職員数:各車に乗る職員人数

利用者往復延人数:利用者数往復合計人数

注2:車種 L:リフト車、W:ワゴン車、S:普通車、M:軽自動車

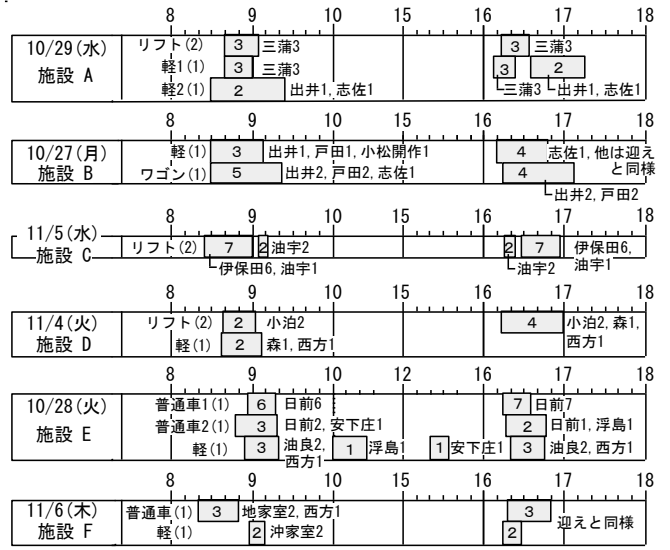


図5 1日の送迎時間

地しており、島の主要幹線道路である国道から少し南に下った場所である。登録者の7割が三蒲からの利用であり、1名のみ旧久賀町からの利用者があるが、その他は全員が旧大島町内からの利用者である。施設Bは出井に立地するが、他の施設とは違い集落の中心地から離れた場所に位置している。登録者8名の内、出井(3名)・戸田(3名)・志佐(1名)・小松開作(1名)からの利用者があり、施設近辺の出井と戸田からの利用者で全体の7割を占める。施設から離れた2名の利用者は、「慣れた職員がいる」、「サービス提供時間が長い」という理由で施設Bを選んでいる。

施設Cは旧東和町の東部に位置し、油宇に立地している。島の主要道路である県道沿いに施設があり、伊保田と油宇の中心地から近い。登録者は伊保田(11名)で全体の6割を占め、また油宇(6名)では3割を占めており、利用者全員が施設周辺地域に居住している。施設Dは和田の中心地に立地し、国道沿いに建っている。登録者は和田(6名)・内入(4名)・小泊(3名)・森(3名)・平野(2名)・西方(1名)・東安下庄(1名)で、施設に近い和田・内入・小泊からの利用者で3割を占めるものの、遠方からの利用者が3割と多い。遠方からの通所理由は、「土曜日に利用できる」、「他施設でトラブルがあった」の2つの理由が多く挙げられた。

施設Eは海に面しており、日前の漁港の脇に位置し、日前・土居地区の中心地に近い。浮島からの船の発着所が近くにあるため、浮島も施設の通常利用圏にあたる。登録者は日前(22名)・油良(4名)・浮島(1名)・東安下庄(1名)・久賀(1名)・西方(3名)・外入(1名)・森(3名)で、日前で全体の6割を占めている。また、旧橋町内からの利用者は全体の8割を占める。施設Fは地家室の佐連地区に位置し、幹線道路から外れた場所にある。沖家室と

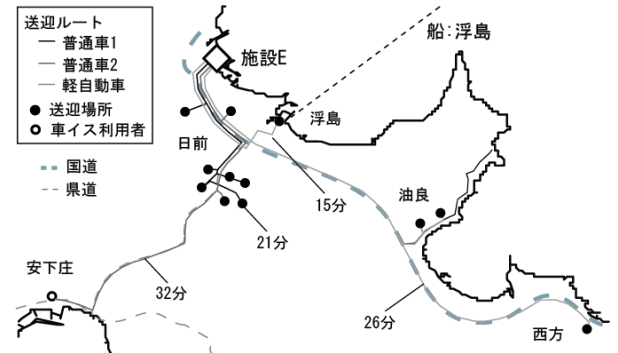


図6 施設Eの送迎ルートマップ

は橋でつづいており交通の便が良いため、沖家室からの利用者も多い。登録者は地家室(6名)・沖家室(9名)・外入(1名)・西方(6名)・油良(1名)で、施設近辺の地家室・沖家室からの利用者が全体の6割を占める。その他の地域からの利用者は遠方からの利用になるが、油良以外は旧東和町内である。

以上のように利用者の希望により遠くから来所する利用者もいるが、全施設において60%利用圏は小さい。施設の立地地区と隣接地区から来所する利用者が6-10割を占めており、施設間で利用圏が重なる地域は少ない。また、遠方からの利用者の中で旧町内の利用者が、施設Eで1割^{注2)}、施設Aで8割、施設Dで9割、施設B、Fで10割を占めていることから、利用者は旧町内で施設選択を行う傾向があり、地域ごとのまとまりがあると考えられる。

4.2 送迎方法と送迎時間

調査日の利用者往復延人数・送迎時間と職員の所要時間を表2に示す。また、送迎時間を図5に、施設Eの送迎ルート図7に示す。施設C,E,Fの職員所要時間は10分以内であるのに対して、施設A,Bでは10分以上、施設D

では 20 分以上と長い。

施設 A では三蒲車地区に位置し、車イス利用者 1 名を含めた 8 名の利用者を 3 台の送迎車で送迎している。リフト車に乗る利用者は 3 名と少ないが車イス利用者の乗車介助に時間を要し、地域別に送迎車を変えているが、出井・戸田は施設から遠く送迎距離が長いいため職員所要時間が 13.9 分と少し長くなっている。施設 B でも施設 A と同様車イス利用者が 1 名おり、送迎距離も長い。また、出井・戸田からの利用者が 6 名と多いため、送迎車の地域分担ができていないため、送迎時間が長くなっていると考えられる。

施設 C は利用圏が狭くまとまっているため、送迎距離が短くなり職員所要時間が 8.7 分と短い。伊保田に住む 6 名の内 5 名がほぼ同じ通りに住んでおり、車イス利用者が乗るリフト車の送迎にも時間を要していない。利用圏が同じ地区にまとまっていると、車イス利用者がいても送迎距離が短くなり、送迎時間も短くなるのが分かる。施設 D は利用者が 4 名と最も少ないにも関わらず、職員所要時間が 21.6 分と最も長くなっている。理由として送迎人数に対する送迎距離が最も長いことが挙げられる。さらに、車イス利用者 1 名の乗車介助に時間を要することも要因となっている。

施設 E では職員所要時間が 7.2 分と最も短くなっている。図 6 に示すように、3 台の送迎車で送迎地域の分担が行われており、浮島に住む利用者は船の到着時間に合わせて、発着所まで迎えに行っている。由良・西方・安下庄は施設から遠いが、広い道路が整備されており、3 台に分けて送迎を行っているため送迎時間が短くなっていると考えられる。施設 F は施設から離れた場所に住む利用者が西方の 1 名のみで、他 4 名は地家室・沖家室で施設から近く、車イス利用者がいないため、職員所要時間が 9.1 分と短くなっている。

以上より、職員所要時間が短い施設では送迎を地域ごとに分担している施設が多く、その中でも 3 台に分けて送迎している施設 E が最も短くなっている。また、施設の利用圏が狭いことが職員所要時間を短くする要因であると考えられる。一方、送迎地域の分担ができていても、送迎人数に対する送迎距離が長くなると職員所要時間が長くなることが施設 D より明らかになった。

5. まとめ

本報では、社会福祉協議会委託管理方式で運営される施設において、利用圏と送迎体制を明らかにした。得られた知見は以下の通りである。

1) 全施設において、年齢は 85 歳以上の高齢者が 6 割を占め利用者の年齢層は高いが、介護度は要介護 2 以下が 5 割を占めており介護度は低い。施設 A にのみリフト浴が整備されているが、介護度は他施設と変わらず、介護度の高い利用者が集まる傾向はみられない。このことから利用者の多くは設備を考慮した施設選択をしていないと考えられる。

2) 利用圏は、施設近辺の利用者で 6 割—10 割を占めており、利用圏が狭くなっている。さらに、施設間で利用圏が重なる地域は少ない。また、遠方からの利用者については、施設が立地する旧町内の利用者が、施設 E の 1 割を除いて、他施設では 8 割—10 割を占めており、利用者の希望により遠くから来所も見られるが、利用者は旧町内で施設選択を行う傾向があり、地域ごとのまとまりがあると考えられる。

3) 送迎方法では、職員所要時間が 10 分以内の施設と 10 分または 20 分以上かかっている施設があり、職員所要時間が短い施設の特徴として、送迎を地域ごとに分担していることと、送迎範囲が狭いことが挙げられる。しかし、施設 E では送迎範囲は広いが、送迎車の台数が多く細かく送迎地域を分担することで職員所要時間が短くなっている事例も観察された。一方、職員所要時間が長い施設の特徴として、車イス利用者の乗車介助に時間を要していること、送迎範囲が広いことが挙げられる。施設 D では送迎範囲が広く送迎人数が少ないため最も職員所要時間が長い。

謝辞

本研究を進めるにあたり、谷満雄氏(社会福祉法人周防大島町社会福祉協議会事務局長)、各施設職員及び利用者の方々の多大な協力をいただいた。末尾ながら記して謝意を表します。

注

注 1) 利用登録者データは全施設 2014 年 12 月時点のものである。データ内容は住所・性別・年齢・利用日・入浴サービス内容・来所方法・介護度・認知度・車イス利用の有無である。

注 2) 施設 E では、人間関係が合わない、認知度が高いため以前通所していた施設を移りたいと希望している旧桶町外の利用者の受け入れが他の 5 施設に比べて 4 名と多いため割合が低くなっている。

参考文献

1) 中園真人他 2 名：広域基幹施設と民家を活用した小規模デイサービス施設の整備プロセスと利用特性, 日本建築学会計画系論文集, 第 77 巻 第 675 号, pp. 1169—1177, 2012. 5

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

** 山口大学大学院理工学研究科 博士後期課程

*** 山口大学大学院理工学研究科 講師・博士(工学)

**** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

***** 筑波大学システム情報系 助教・博士(工学)

* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

** Doctoral Course, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.

*** Lecturer, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng.

**** Professor, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.

***** Assistant Prof., Faculty of Eng., Info. and Systems, Univ. of Tsukuba Dr. Eng.